●鉄道廃止　バス運行へ (10/11 18:58)

十和田観光電鉄は鉄道事業から撤退することを正式に表明した。来年3月31日で鉄道の運行を終了し、4月1日から路線バスに切り替える。

これは十和田観光電鉄の白石社長が沿線自治体や学校関係者などで作る協議会で述べた。

白石社長は来年3月31日に鉄道事業から撤退し、4月1日から路線バスに切り替えることを正式に表明した。

十和田観光電鉄は赤字が続く鉄道事業を維持するため、沿線の十和田市と三沢市、六戸町に今後10年間で5億2000万円の財政支援を要請した。

しかし沿線自治体が「支援には応じられない」と回答したため、鉄道の廃止は避けられない情勢となっていた。

十和田観光電鉄の白石社長は撤退を判断した理由として、支援なしには安全に関わる設備投資ができないことや、鉄道の役割は終わったという声が沿線自治体にあることなどをあげた。

十和田観光電鉄はきょうの協議会で鉄道の代わりとなるバス運行の素案を示し、沿線自治体や学校関係者などと早急に協議に入ることを確認した。

動画を見る

●バス運行に多くの課題 (10/11 18:56)

十和田観光鉄道の鉄道路線は90年近い歴史に幕を閉じることが決まった。来年春からは路線バスに切り替わるが、高校生たちの通学の足の確保など課題が伴う。

十和田観光電鉄の鉄道路線は利用者の8割を沿線の高校に通う生徒たちが占めている。

十和田観光電鉄がきょうの協議会で示したバス運行の素案では、鉄道と同じく十和田市と三沢市の間を1日17往復するほか、高校生の通学に必要な便数を確保するなどとしている。

高校側からは冬場のダイヤの乱れや運賃などについて質問が出された。

現在、朝の登校時には300人の高校生が鉄道を利用しており、バスに切り替えると同じ時間帯に6台を運行する必要がある。

また部活動などで時間帯がまちまちになる下校の足の確保のほか、バスの運行に伴って渋滞の発生が懸念されるなど課題が伴う。

十和田観光電鉄は、ダイヤや運賃など具体的な運行計画を年内に固めて県に申請する方針。

動画を見る